建設現場において遠隔での工事監督を導入

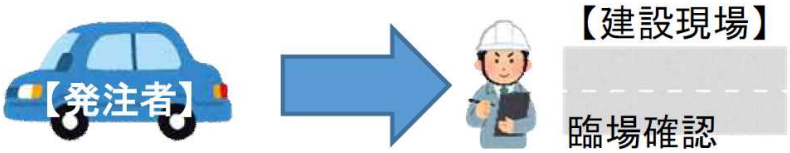
－インフラ分野のDXの推進－

（取組みの背景）

インフラ分野のDX（ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）を推進し、臨場(※)に係る移動時間の削減や立会いの調整時間の削減を図り、建設現場の働き方改革、生産性向上に資する取組みとして、**建設現場において遠隔での工事監督を令和3年8月から導入しています。**（※）臨場：工事現場に赴くこと

これまでの工事監督

・発注者の監督員が確認のため現場へ移動。
・現場によっては、片道1時間以上かかることもある。
・受注者はあらかじめ監督員と確認予定日時を調整する必要がある。



（工事監督とは）
・公共工事では、各施工段階等において、発注者の監督員が確認しながら工事を進めていきます。
・確認を受けた後に次の工程に進むため、現場確認の日時が工事の工程に影響します。

デジタル技術を活用して工事現場は進化しています！

遠隔での工事監督

・インターネットを介して、スマートフォンやウェアラブルカメラ等による映像と音声を使用して工事監督を行うもの。茨城県土木部では、令和3年度は50件程度の工事で実施を予定しています。

（活用イメージ）

＜導入効果＞
・監督員が、現場まで移動する必要が無くなり、効率的な時間の活用ができる。（テレワークでも工事監督が可能となるなど、職員の働き方改革を推進）
・受注者は、監督員の拘束時間が短くなることから、監督員の日程調整が容易になり、現場での待ち時間が短縮され、円滑に工事を進めることができる。
・また、万が一、現場で災害等が発生した場合にも、迅速な情報共有が可能となり、早急な対応が可能となる。

・工事監督のオンライン化

⇒ 建設産業の担い手不足に対応するための生産性向上、受発注者双方の働き方改革、コロナ対策にも寄与！